

音楽との
出会いに感謝

久保さんがはじめて音楽と出会ったのは、小学2年生の時にピッコロを習い始めた

が丈夫になるためにはじめたという。「初めて買ってもらったピッコロは安物だったが本当に嬉しかった。母親の決断というか、判断に感謝している」と久保さんは話す。楽器の演奏を続けているうちに体も丈夫になり、小学6年生の時からフルート、高校2年生になるとテナーサックスを演奏するようになった。小学6年生には、マーチングバンドにも参加し、パレードをしていたそうだ。「小さい頃から管楽器に触れ、音楽を選んで本当に幸せだと思う。音楽を選んだから今があると思う」と話してくれた。

演奏・ジャズ・ロック・クラシック・マーチングと幅広い音楽を愛する久保さんは美野里に住んで10年になる。東京から緑と土を求めてやって

来たそうだ。縁があつて先後地区に住み、休日には9歳になるお嬢さんと一緒に料理をしたり、クッキーを焼いたりと子煩悩なパパでもある。週末の一日は家族で様々なところへ足を運んでいるそうだ。

久保さんは週3回、個人レッスンをしており、将来はドラムなどもある個人練習場を作るのが夢だ。また、施設や病院への慰問や小・中学生とのコラボレーション、将来的には音楽を始めたい人のための本を出版・・・等、頭の中には10年分位の計画が詰まっているという。「病弱だった子どもの頃、全部自分の生活を捨てて、息子のために病氣と戦ってくれた母は戦友だ」と思う。その母のために叙情歌をフルートで演奏してCDを一枚作りたいと思う。それ

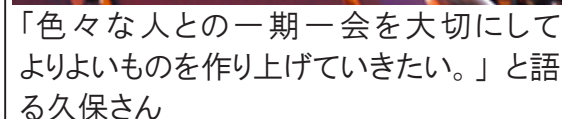
が良き理解者である母への恩返しだと思う」と話す。久保さんのステージを聴いたお母さんからは「30年たつて音が深くなったね」と言われたのが嬉しかったという。

今回、久保さんが出演する
“ここで逢えたら…”は
芝居と歌と音楽で綴るエン

ターテイメント。ゼロから創り上げていくことにおもしろさを感じるという。「魅力的なメンバーと自分が好む音楽以外のものを経験できることは、いい刺激となっている。」と久保さん。当然、公演を創

り上げていく上で意見がぶつかり合うこともあるが、段々とみんなの想いが詰まったものになっていくそうだ。「メロディーはトッピングで、大切なのはリズムセツションあとはバランスを考え、どう練り上げていくか……ここがいつも悩むところ。」と久保さんは話す。そんな久保さんは、「この世は縁で出来ている全ての出来事をプラスで考えることが出来れば必ず上手くいくはず。どんなに不可能に思えることでも可能性は常にある。」と話してくれた。

この公演は、久保さんにとつて「バンドマンとしてもこれ以上ない幸せな場所」だという。皆さんも、幸せのヒミツ“を見つげに「ここで逢えたら：VOL3」へ是非お越しください。



演劇ファミリーMyu

久保 浩さん

みの〜れと共に生活するスタイル
Minole Life
のすすめ No.34